

研究課題名	眼内レンズ強膜内固定術における術式間の術後視機能の比較検討：山根式ダブルニードル法と 27G ポート併用法の後ろ向き解析
研究の意義・目的	眼内レンズがズれてしまった場合などに行う「強膜内固定術」には、主に 2 つの術式（山根式ダブルニードル法、27G ポート併用法）があります。本研究では、過去の手術データを振り返り、どちらの術式がより術後のピントのズレ（乱視や屈折誤差）が少なく、レンズが安定するかを比較検討します。この研究結果は、今後の患者さんにより安全で確実な視力回復を提供する術式を選択するための重要な医学的根拠となります。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～2028 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2018 年 1 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日の間に、当院において強膜内固定術（山根式ダブルニードル法または 27G ポート併用法）を受けられた方。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	本研究は、過去の診療記録（カルテ）を用いた研究（後ろ向き観察研究）です。対象となる方に、新たに検査や採血等のご負担をお願いすることは一切ありません。診療の過程で得られた以下の項目を本研究に使用させていただきます。・年齢、性別、既往歴、眼科的な合併症の有無・眼科検査結果（術前・術後の視力、眼圧、屈折値、角膜乱視、眼軸長など）・手術に関する情報（術式、使用した眼内レンズの種類・度数）・画像検査結果（前眼部 OCT (CASIA) 等の画像データ、眼底画像など）・術中および術後合併症に関する情報
「試料・情報を利用 する者の範囲および 管理について責任を 有する者の研究機関 の名称」	大阪公立大学医学部附属病院 視覚病態学 田上 瑞記
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。 この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
本研究の 利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	所属：大阪公立大学医学部附属病院 視覚病態学 担当者氏名：田上 瑞記（たがみ みずき）

	電話番号 : 06-6645-3867